

胎内岩

押田礼子

■山行年月日:平成30年7月21日(土)

■メンバー:堀江誠克 佐藤有

押田礼子 大竹尚子

胎内岩は、本当にすばらしかった。ワールド・チムニーを登り終えた後の風景は、今も心に残って離れない。堀江さん、佐藤有さん、そして尚子さん、ありがとうございました。

7月21日 大竹宅を出発し沼尻スキー場駐車場へ向かった。この日はあいにく斎藤憲さんは都合が悪くなり、不参加となってしまったが、堀江さんと堀江さんの高校の大先輩、佐藤有さんが一緒に登ってくれることになり、尚子さん、私に加わり4名で胎内岩を目指すことになった。

駐車場8:43出発。堀江さんや佐藤さんとは一緒に山に登ったことがなく、何かぎこちなく緊張していたが、尾根道をたどり源泉を流す木柵と並行して歩いているとほどなく白糸の滝が見えてきた。緊張も徐々にほぐれ、暫し足を止めながらながめっているとトンボが体に触れてくる、肩に頭にと……。秋が近づいていることも感じられた。吹きぬける風は爽やかで、街の暑さが嘘のよう(涼しい)。再び歩き出すと湯ノ花採取小屋があらわれ、硫黄の臭いが強くなり始める。尚さんは硫黄の臭いで息が苦しく辛そうだった。小屋手前から左へ斜面を登っていくと湯ノ花小屋がだんだん小

さくなり硫黄川に沿って進んでいくと沼ノ平分岐に到着する。更に急登を進むと、やっと佐藤さんが大岩の下で休んでいるのが見える。ここで一息(フーッ)。二人が受け持つ高校山岳部の活動のことや二人の間柄等を聞きながら涼を楽しんだ所で、最後の登りを胎内岩へ向かう。右手前方に岩稜帯が姿を現し始めた頃、突然、堀江さんが登山道から外れ、横道の草むらの中へガンガン分け入って行く。「えっ、ここですか?ここ入るんですか?」と思う余裕もなく、そうガンガン進んでいる。必死について歩いているとスーッと視界が開け、胎内岩の全貌があらわれる。10:00胎内岩到着。休息もそこそこに岩に向かう。胎内岩は両輝石安山岩とのこと。想像以上の大迫力に圧倒されてしまう。見た目には震災

胎内岩のボルダーク群





ネコ・レイバックを登る

の影響は分からないが、岩はどうなっているのだろう。早速、ネコ・レイバックに取り付く。堀江さんと有さんが難なくリードで登り切り、私にもリードで登るよう勧めてくれたが、丁寧にお断りしトップロープでどうにか登ることができた。5.9程度とのことだが、ジムと外岩ではスケール、緊張感がまるで違うため圧倒されてしまった。次はコールド・チムニーを登る。名前の由来を尋ねると、岩の奥から冷気が流れてきた。「これが名前の由来なんですね。」と納得。堀江さんが装備を(ナチュラルプロテクション)がっちり身に付けダブルロープで登り始める。薄暗い岩の間をカムを設置しながら登り進み、いつの間にか姿を消してしまうとコールがあり、有さんが登りだし私もすぐに追いかけるように登っていくが、なかなか進まない。チョークバックが岩に引っかかり、岩の間を這う

ように必死にもがいているとやっとチムニーを抜け、最後の急登を登り終え、



コールド・チムニーの登攀

ふと振り返ると船明神の稜線、美しい空、沼ノ平、本山が迎えてくれた。この風景は本当に美しく、じわーっと体の奥から感動した。この日一番、胎内岩に来れたことがうれしかった瞬間。しかし、余韻に浸っている場合ではなく、必死にロープを回収し上部のハイマツ帯を移動、初めに休息した場所へ懸垂で降りることになる。尚子さんが皆の靴を移動してくれるので、急いで降りなければ・・・。不慣れな私は二人に迷惑をかけながらもやっと降り、尚子さんと合流。昼食をとり、その後は、逆くの字クラック、目玉クラックとトップロープで登らせてもらったが、どちらも途中まで登り歯が立たない。「クラックの登りができないと胎内は登れない。」と堀江さんからだめ出しの一言。もっともっと外岩、ク

ラックを登る経験が必要と痛感した。最後に、堀江さんがマリチャン・フェースを登り切った時、すでに 16:00. そろそろ下山することにした。ちなみにマリチャン・フェースのマリチャンはネーミングした人の彼女の様です。(堀江さん弁)



マリちゃんフェースの登攀

帰りは堀江さん、有さんが湯ノ花採取場の天然露天風呂に入って帰るとのことなので、二人とはここで別れ、私たちはトンボに誘導してもらいながら帰路についた。

今回の胎内岩の岩登りは本当に楽しかった。素晴らしいロケーションと美しい岩稜、自然の中で登る楽しさが少しわかった気がした。堀江さん、佐藤さん、尚子さん、未熟な私に付き合ってもらいありがとうございました。ロープのこと、技術的なこと、登る心構え、いろいろなことに気付かされた岩登りでした。次に外岩に行く時には、技術と力を身に付けて楽しい岩登りを目指したいです。それから、今度胎内岩に登る時には、是非、源泉に入りたいものです。



どこでも温泉？